

“野毛の図書館”の誕生まで	p. 1
お知らせ／講座	p. 2
展示／子ども向けイベント／おはなし会	p. 3
創立90周年事業／ @Libミニブックリスト番外編「震災・防災リンク集」	p. 4
ホームページ http://www.city.yokohama.lg.jp/kyoiku/library/	2011年5月号



横浜市立図書館は、今年創立90周年を迎えます。

“野毛の図書館”の誕生まで

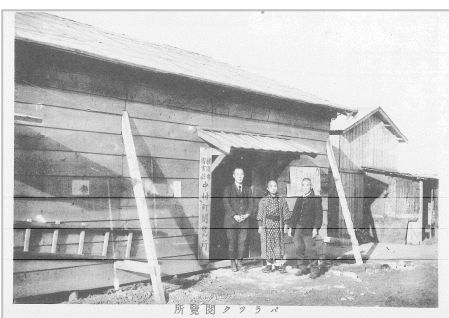
市民のみなさまに“野毛の図書館”として親しまれた、横浜市図書館（現中央図書館の前身）誕生までを振り返ります。

年月	事項
1919(大正8)年12月	開港60周年・自治制施行30周年記念事業として図書館の建設を計画
1921(大正10)年6月	横浜公園内の建築事務所内仮閲覧所で図書の閲覧開始(横浜市立図書館の創立)
1923(大正12)年9月	関東大震災により建物と蔵書を焼失
12月	中村町に仮閲覧所を設置し、閲覧開始
1924(大正13)年3月	横浜公園内に仮本館が竣工し、落成記念に震災展覧会を開催
4月	閲覧業務を開始
9月	館外貸出を実施
1927(昭和2)年7月	旧老松小学校跡に横浜市図書館竣工

横浜市立図書館の歴史は、実は野毛ではなく横浜公園の一角から始まりました。大正8年に開港60周年・自治制施行30周年記念事業として横浜公園内に建設が計画され、大正10年6月に仮閲覧所が開設されました。これが横浜市立図書館の創立です。残念ながら写真は残っていません。

当時の図書館は有料で、館内閲覧料は1回2銭、館外閲覧料は1か月50銭でした。館外閲覧には他に保証金5円も必要でした。ちなみに当時の映画館の入場料は30銭ほどだったようです。

この仮閲覧所は館内が狭かったため館外貸出に努めましたが、館内閲覧を希望する人が多く、毎日入館を断らざるを得ない状況だったと、当時の業務日誌が伝えています。



中村町仮閲覧所 関東大震災から3か月後

しかし大正12年9月、関東大震災で仮閲覧所の建物・施設をはじめ、蔵書約13,000冊を焼失してしまいました。

震災後再び活動を開始しますが、図書の入手には非常に困難を窮めました。佐賀県立・大阪市立図書館などを始めとした各地からの寄贈図書や県下および市内の篤志家からの寄贈図書に購入図書を加えて、中村町の仮閲覧所で閲覧を開始したのは震災から3か月後のことでした。

その後、2度の移転をし、ようやく昭和2年7月、野毛の地に横浜市図書館（現中央図書館の前身）が竣工したのです。



横浜市図書館
(現中央図書館の前身)竣工
昭和2年



横浜市図書館
(現中央図書館の前身)閲覧室
年代不明

次号に続く